

令和6年度 県立協和特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	一人一人の笑顔があふれる活力ある学校『チーム協和』づくり ◆安心安全で助け合える学校 ◆主体性を育む学校 ◆地域と連携する学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
ICT 機器の活用について、発達段階に応じた活用が進んだ。キャリア発達を踏まえ、学部間の系統性を整理した。さらに実践しながらの検討が必要である。 計画訪問等の実践の中で、授業改善に向けての課題と方向性が明らかになった。「各学習活動の振り返り」に焦点を絞り、「みんなで・いつも」の授業改善への取り組みと、自立活動の指導の事例を整理・向上し、地域にも共有できるようにしていく必要がある。	主体性を育む授業改善	①児童生徒の学びの充実のため、学習活動の振り返りから次につなげる「主体的な学び」の実現を目指した授業改善に取り組む。 ②一人一人の児童生徒に必要な自立活動の課題を設定し、専門家と連携した授業実践を通して自立活動全般に対する理解を深め、実践的指導力の向上を図る。 ③キャリア教育の視点を踏まえ、小学部・中学部・高等部の系統的な生きる力の育成を図る。 ④ICT 機器の効果的活用と個々の児童生徒の実態や興味関心に即した教材教具の工夫を推進する。	C
今後も感染症対策の意識とヒヤリハット事例の検証等を継続し、日常からの環境整備と安全対策への取り組みを持続させていく必要がある。 防災教育について継続的に取り組み、対応マニュアル等の見直しも検討していく。 日々の観察や保護者・児童生徒に対するいじめアンケートを継続し、課題の早期発見と対応の検討に取り組む。地域との事業を通して、自己肯定感を育む活動に取り組んでいく。	安全で安心できる学校づくりと心の育成	⑤感染症対策を踏まえた教室内外の安全点検、ヒヤリハット事例の検証などにより、安全で安心できる学校づくりに努める。また、保護者・スクールバス乗務員等と連携し登下校時の安全確保に努める。 ⑥避難訓練、不審者対応訓練、緊急時対応訓練など各種訓練を実施し、対応スキルや危機管理意識の向上に努めるとともに、課題を基に内容の改善・充実に努め、対応マニュアル等の見直しや関係機関（警察・消防・教育機関・学校医等）との連携強化を継続する。 ⑦コンプライアンス推進委員会やいじめ防止対策会議などを中心に、いじめ・体罰・差別・虐待等がなく、自己肯定感の育成に努めるとともに、教職員一人一人の人権を意識したかかわりと支援の充実を図り、『チーム協和』としての学校づくりに努める。 ⑧児童生徒一人一人の身体の発達に応じた、健全な心と体の育成に向けた支援を行い、生活習慣の確立の徹底・改善に努め、体力づくりの推進を図る。	B
新しい「地域との協働」や「PTA活動」について検討し、児童生徒の育成のための関係づくりに取り組んでいく。 今後も学校の取り組みや児童生徒の作品・活動を紹介する場を増やし、学校の教育活動に関する理解啓発を図っていく必要がある。 今年度も学区内の幼児児童生徒それぞれが、適切な学びの場で成長できるよう、地域の関係機関と連携し、地域全体の特別支援教育に関する理解を深めていく。	地域との連携の推進	⑨コミュニティ・スクール(学校運営協議会の導入)として、「地域とともにある学校」へ転換し、地域と一体となって特色ある学校づくりを目指す。 ⑩保護者同士のかかわりの充実を目指し、時代のニーズに応じた新しいPTA活動を推進する。 ⑪継続して「特別支援教育地域連携協議会」を設置し、センター的機能の充実を図り、地域における特別な支援を必要とする乳幼児・児童・生徒にかかわる相談支援を推進し、地域の関係機関との連携を密にした支援ネットワークづくりに努める。 ⑫交流及び共同学習を積極的に行うとともに、学校内外における児童生徒の作品発表等の積極的な地域参加をとおして、本校の教育活動に関する情報発信・理解啓発に努める。また、校外での実習等を計画的に行うことで、より地域資源の活用にも努め、効果的な事業所の開拓や連携を図る。	C
会議の精選や事務処理の見直しを図り、校務の整理削減に取り組んだ。さらに授業改善に重点がおけるような環境を整備していく必要がある。	職員の働き方改革の推進	⑬校務のさらなるDX化を推進し、校内研究や研修の時間を確保するなど、授業改善に重点をおける環境を整備していく。	C